

## TruPhase の導入(8)

### —アンプの交換(1)—

#### 1. はじめに

TruPhase のアナログ再生においてアンプの交換を実施してみます。

#### 2. TruPhase のアナログ再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、ZANDEN Model 120 からアナログアキュライザー AACU-1000 経由の RCA 入力を TruPhase の RCA3 の端子に入力し、出力は RCA 出力を PX-25 シングルアンプに入力することで再生を行いました。即ち、アンプの交換と AACU-1000 を TruPhase の出力側から入力側に変更しています。

音源は、すでに前報(2)でも使用し、P&G のフェーダーで評価の固まっている次の音源を使用し、ZANDEN Model 120 の条件設定も既知の条件にしています。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG2367 (日本ポリドール)

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調

ウイルヘルム・ケンプ

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H

ミトマニア ベーレン・ゲスリン

#### 3. TruPhase のアナログ再生における動作確認の結果

前報(7)までは、アンプは Langevin 6V6pp アンプでした。これは、300B シングルアンプの不調にともない、駆動アンプの聴き比べを行い、[ZANDEN Model 120 の導入\(13\)](#)で使用した結果を受けたものです。この他、[ZANDEN Model 120 の導入\(14\)](#)で Rogers Cadet III、[ZANDEN Model 120 の導入\(15\)](#)で PX-25 シングルアンプ、

[ZANDEN Model 120 の導入\(16\)](#)で IPC AM1029 を使用してきましたが、Rogers CadetIIIにはパワー感はあるものの繊細な表現が劣り、IPC AM1029 はソフトな音質が望ましいものの、ゲインが低い難点があったので、PX-25 シングルアンプを選んでみました。

PX-25 シングルアンプの場合、まず気が付くことは、Langevin 6V6pp アンプと違ってゲインが高いことです。TruPhase のボリュームを絞る必要がありますが、そうすると音質的に粗く感じられます。そこで、Model 120 のゲイン切り替えで低い方にセットし、TruPhase のボリュームを上げると音質が安定しましたので、以下、このような設定で試聴していきました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas では、ミルシュテインの艶のあるボウイングで、豊かな音色が空間に広がる様も手に取るように分かります。

ドイツグラモフォン MG2367 のベートーベンのピアノソナタ第 31 番・第 32 番では、ケンプの鋭角的な打鍵の響きを表現してくれています。

倍賞千恵子では、直熱 3 極管シングルアンプらしくボーカルもバックも伸び伸びとした再生ぶりを示します。

LONDON KLJC-9180/9184 のワーグナーのワルキューレでは、シングルアンプにしては、スケール感がありますが、細部の緻密な表現と歌手陣のやりとりの位置関係などステージ感は、Langevin 6V6pp アンプに一步譲ります。

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H のミトマニアでは、ボーカルは伸び伸びと歌い、中世の古楽器である、撥弦楽器、擦弦楽器、管楽器、打楽器ともその質感がリアルに再現されます。

#### 4. まとめ

TruPhase は、ZANDEN Model 120 との相性もよく、アンプを PX-25 シングルに替えても、オーケストラのスケール感では Langevin 6V6pp アンプに及ばないものの、これまでに聴いてきた馴染みの盤が、新しい魅力を発揮してくれることが分かりました。

以上